

学習内容報告書 フォーマット

学校名	北海道標津高等学校
授業者	鈴木祐二

1. 単元計画

1-1. 単元名

アイスフィッシング～氷の下の魚を知る～

1-2. 学年

2年生

1-3. 教科（単元を実施する教科を全てお書きください）

自然環境系科目

1-4. 単元の概要

地域の気候にあわせた海洋レジャーである野付湾のアイスフィッシングを体験することで、海の恵みに感謝する。また、氷点下の環境での野付の自然を体感し、地域の気候風土を肌で感じる。

沿岸の重要な水産生物であるチカ（キュウリウオ科）を対象に学習し、近縁種であるワカサギやキュウリウオと比較することで魚類解剖学的な視野を広げる。さらに、チカの一晩干しを作ることで地域の伝統的な食の理解を深める。

1-5. 単元設定の理由・ねらい

- 1 地域の主要水産魚種を理解する。また、人と自然と食の関わり方について考えを深める。（自然環境系科目）
- 2 釣りを体験することで、海の豊かさを実感することで海洋環境を含め、それを取り巻く動植物の保全に向けて進んで取り組む姿勢を身につける。（海洋教育パイオニアスクール単元開発）
- 3 アイスフィッシングを通して、地域特有の気候風土を実感し、海からの恵みを感じる心を養う。（海洋教育パイオニアスクール単元開発）

1-6. 育みたい資質や能力、態度

- ・海に親しみ楽しむ態度や率先して海洋環境を保全していこうとする行動力。
- ・身近な海の資源の豊かさを実感し、海と陸の繋がりを理解し、海の豊かさと陸の豊かさを合わせて環境を守る態度。
- ・積極的に自然環境へ入り込み、楽しむ心。

1-7. 単元の展開（全6時間）

時 数	学習活動・主な内容	教師の指導 / 主な評価 外部連携 / 使用教材等
1	オリエンテーション ・釣りの準備 ・仕掛けの付け方	事前準備 前日に釣り場の安全確認、氷の厚さの確認を教員で確かめる。
2	アイスフィッシング ・アイズドリル体験 ・釣りの準備 ・釣り体験	仕掛けがつけられるか、リール等の扱いができてい るか確認し、補助する。 体調不良者がいないか随時確認する。
1	・釣り後の魚の処理（干物作り）	

2. 学習活動の実際

2-1. 単元における位置づけ

単元 時間中の 時間目

※例：単元 10 時間中の 2 時間目 / 単元 15 時間中の 4, 5 時間目

2-2. 本時の目標

アイスフィッシング準備及び釣り体験

- ・釣りの準備を自分たちでできるようになること。さらに、待ち網漁で学習した魚の分類を復習して、釣った魚の分類を行う。
- ・当日は、仲間と協力し、穴開けから仕掛けの準備を行い、実際に釣りをおこなう。実習後、釣った魚の利用を考える。

2-3. 本時の展開

主な学習活動 / 反応	教師の指導・支援 / 評価の視点 (方法)
アイスフィッシング事前準備 ＜釣り道具の確認＞ アイスドリル、釣り竿を人数分確認 仕掛けの確認 釣れると予想される魚を図鑑で調べる。 寒さに対応するための服装などを互いに確認する。	事前準備 ・アイスドリル、釣り竿を準備 ・仕掛けの準備
釣り体験 ＜移動＞ タクシーへ乗り込み、移動。	実施当日 ・事前に 2 名で釣り場へ向かい、安全の確認
＜釣り体験＞ ・アイスドリルの使い方を学ぶ。 ・仕掛けの特徴と釣り場の環境を理解する。 ・実際に釣りながら魚の分類を行う。 特に、チカとワカサギの区別を行う。 ・魚を干物にする準備を行い、干物を作成する	評価の視点 ・各自で準備及び片付けができるか ・分類ができたか ・他魚種との比較することができたか ・解剖道具を正しく使うことができたか



3. 今回の活動の自己評価

4. 今後の課題

コロナ禍で密になることを避ける必要があるため、今年度は、あえてテントを使用しなかった。次年度は、6人用程度の避難用テントを設営しても良いと考える。

5. 本学習内容報告書活用にあたっての留意点